

【展覧会】

ボーダレス・エリア近江八幡をみんなで作るプロジェクト

以“身”伝心 からだから、はじめてみる



“身体”がテーマの展覧会「以“身”伝心 からだから、はじめてみる」——本展に出展する8組の作者は、絵画や彫刻、写真、インスタレーション、パフォーマンスなどといった美術の領域から、オーダーメイドの車いす制作といった福祉の領域まで、それぞれの方法で身体に向き合っています。

彼らの表現や製作は、身体を巡る様々なテーマ——身体に滲む自己のルーツ、身体で感得する非言語的な感情、身体を駆使した更なる表現の可能性——について考えるきっかけを与えてくれます。

会期：

2018年9月22日(土)～11月25日(日)

会場：

【第1会場】

ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

【第2会場】

奥村家住宅

ボーダレス・エリア近江八幡をみんなで作るプロジェクト

本展は「ボーダレス・エリア近江八幡をみんなで作るプロジェクト」の一環として開催する展覧会です。ボーダレスな場を目指して、以下のことに取り組みます。

■目で見るだけでなく、聴覚情報や手触りで展覧会を楽しむ

作品に関連したオリジナルの音声ガイドや、触ってご鑑賞いただける作品があります。ぜひ、ご体感ください。また、視覚障害者の方々に向けて、点字や触図も用意しています。

■地域の方々をはじめとする、サポーターたちの積極的な参画

NO-MAのキュレーターと一緒に作品の展示に関わるキュレーションサポーターや、展覧会や町の魅力を情報発信するボーダレス・エリア記者クラブなど、本展を支える多様なサポーターたち。また、展覧会の中には近江八幡の歴史に関わりの深いスポット、“八幡堀”を紹介するエリアもあります。

■会期中に開かれる魅力的なイベントの数々！

アトリエでの創作体験、ダンスワークショップ、お香づくり、ちっちゃなお祭り、映画祭など、会期中たくさんのイベントがあります。是非ご参加ください。

【問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材】

社会福祉法人グロー 法人本部企画事業部（ボーダレス・アートミュージアムNO-MA）
担当：鈴木・松井・山田 〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837 番地の2
TEL：0748-46-8100 FAX：0748-46-8228 MAIL：kikaku@glow.or.jp

展覧会概要

タイトル 「ボーダレス・エリア近江八幡」をみんなで作るプロジェクト

以“身”伝心 からだから、はじめてみる

会 期 2018年（平成30年）9月22日（土）～11月25日（日）

会 場 【第1会場】ボーダレス・アートミュージアムNO-MA（滋賀県近江八幡市永原町上16）
【第2会場】奥村家住宅（滋賀県近江八幡市永原町上8）

開催時間 11：00～17：00

休 催 日 月曜日（祝日の場合は翌日）

観 覧 料 一般300円（250円） 高大生250円（200円） 中学生以下無料

※障害のある方と付添者1名無料（ ）内は20名以上の団体料金

※次の日程は無料開館

・「八幡堀まつり」10月13日（土）、14日（日）18:00～21:00

・「関西文化の日」11月17日（土）、18日（日）

主 催 アール・ブリュット魅力発信事業実行委員会

[構成団体]ボーダレス・アートミュージアムNO-MA（社会福祉法人グロー [GLOW]）、
滋賀県、滋賀県立近代美術館、近江八幡市、一般社団法人近江八幡観光物産協会、
社会福祉法人愛成会、NPO法人はれたりくもったり、
滋賀県施設・学校合同企画展実行委員会

後 援 滋賀県教育委員会、近江八幡市教育委員会

協 力 社会福祉法人青い鳥会 彦根学園、株式会社まっせ、医療法人明心会 柴田病院、
株式会社 夢工房、社会福祉法人しみんふくし滋賀

助 成 平成30年度 文化庁 地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業

出展者紹介（広報画像用）

【第1会場】ポータルレス・アートミュージアムNO-MA

草薙陵太 Kusanagi Ryota（岩手県在住 1988年-）

部屋には日々、トントントン……と、リズムカルで小気味よい音がこだましている。草薙が紙面にペンを打ち付けている音だ。ペン回しに近い要領で指にスナップを効かせ打ち付けていく。夕焼けの風景のようにも見えるが、そうした意図はない。音、そして指に伝わる身体感覚を楽しんでいるのだろう。



①《無題》 2016年頃

徳山 彰 Tokuyama Akira（滋賀県在住 1939年-）

徳山が視力を失ったのは約60年ほど前のこと。オート三輪やちゃぶ台、アイスクャンディー売りなど、いずれも遠い時代を思い起こさせる造形を数多く制作している。記憶の中の情景を反芻し、今度は触角を通じてその憧憬を捉えなおそうとしているように思える。視覚と触角、脳と手、記憶と物質を結ぶ、回路の不思議さに驚きを禁じ得ない。



②《アイスクャンデー売り》 制作年不詳

菊池和晃+にしなつみ Kikuchi Kazuaki + Nishi Natsumi（京都府在住 菊池1993年- にし1992年-）

ブランクーシや、マグリット、クリムトなど美術史における代表的な作家が表現してきた男性と女性による“愛のカタチ”に着目し、引用、再演するアーティスト・ユニット。パフォーマンスとして、ラジカルかつユーモラスに表現することで、アートと愛の関係性を現代の視点で解釈しようと試みている。



③《KISS-Constantin Brancusi》 2016年 撮影：山崎永友

H（富山県在住 1949年-）

温厚な性格のその人は自らが入院する病室でノートに不思議な記録を書いている。記すのは、今、自分の身体感覚への刺激に関する記録である。背中の手が届かないところがかゆくなったり、少し頭が痛くなったりといった、誰でも感じるちょっとした違和感や異変を、超自己流に解釈して綿密に記録している。身体に起きたリアルな異変とそのアウトプットの関係がとても興味深い。



④《無題》 2011年～

森田 寅 Morita Tora（福島県在住 1955年-）

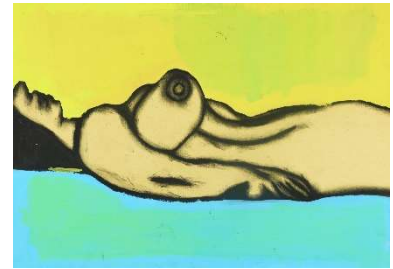
森田は、自身が代表を務める「株式会社夢工房」において、座位保持装置や車椅子などの補装具を、使用者一人ひとりの身体に合わせ、フルオーダーで制作している。今展では、森田によって制作された実物を触って体感できるよう展示するとともに、車椅子を中心とし、使用者、支援者、家族などの関係性が垣間見える、写真も併せて展示する。



⑤《姿勢保持装置》 2018年

【第2会場】奥村家住宅
伊藤賢士 Ito Kenshi (東京都在住 1969年-)

女性のヌードを描く伊藤は、身体そのものを大胆に表現している。身体のフォルムに、官能性と美しさを感じていると思われる。身体のラインをパステルで黒々と野太く擦り込み力強く際立たせていることから、フォルムに並々ならぬこだわりが読み取れる。



⑦ 《女性》制作年不詳

鎌田紀子 Kamada Noriko (岩手県在住 1971年-)

大学で彫塑を学んだ後、手縫いの人形をつくりはじめた。「人の形を作ることに興味がある」という鎌田の人形は、目や歯、爪など鎌田が気になるという体のパーツが誇張され、かつ念入りに制作されている。「恐れ」や「気持ち悪さ」を感じる者も多いが、鎌田がつくる人形には中毒性があり、見続けているとどこか愛おしさや愛着も感じられてくるのもまた事実だ。



⑦ 《大きいひと》 2011年

米田 文 Yoneda Bun (石川県在住 1975年-)

動物や植物などを題材に、思わず手に取って見入ってしまうようなユニークな作風で活躍する米田。作品を構成する小さな「うず」は、まるで無限に増えてくように、かつ引っ付きあい、一つの大きな形を成している。気が遠くなるような制作から生み出された《うずまきさん》は、当時の米田にとって分身であり残骸であり友でもあったという。



⑧ 《赤》 2000年

“耳”と“手”で観る、NO-MAと近江八幡

目から受け取る情報がその多くを占める展覧会。目が見える人も、見えない人も、一緒に楽しんでいただくために、本展では、以下のことを実践します。

■作者や作品のことを知り、想像力を刺激する音声コンテンツ

NO-MA会場では、作者に関する情報をはじめとし、作者へのインタビューや、作品に書かれてある文字の読み上げなど、豊富な内容をお聞きいただけます。さらに、草薙陵太の作品から着想を得て、劇作家・ごまのはえが書き下ろしたオリジナルストーリーの読み上げもあります。視覚障害者に対する情報保証の目的に加えて、想像力を広げていくためのオリジナル音声コンテンツです。

■触れる作品展示

陶器や布など素材の質感、作者の手の跡や、作品の形などといった、手触りから作品をお楽しみください。また、2階で展示される近江八幡の町の魅力を伝える資料も触って鑑賞いただけます。

展覧会関連イベント 「観る」・「創る」・「繋ぐ」……3つのテーマから、様々なイベントを開催

観る

秋のNO-MAの映画祭

精神科病棟に入院する人々、目が見えず耳も聞こえない人々、様々な日常を追った2つのドキュメンタリーを上映します。また、上映後には監督によるトークも行います。

上映日時：

11月11日（日）10：00～12：15 「オキナワへいこう」上映（82分）&トーク

13：30～16：00 「もうろうをいきる」上映（91分）&トーク

講師：大西暢夫（「オキナワへいこう」監督）、西原孝至（「もうろうをいきる」監督）

会場：旧伴家住宅（近江八幡市新町3-15）

定員：40名（要予約）

鑑賞料：1,000円（1作品のみ観賞する場合は500円）

創る

① オープンアトリエ“ENGAWA”

だれでも自由な時間に参加できるオープンアトリエを期間中の土曜日に開催します。言葉では表せないこと、感じたままの想いなどを、陽の当たる縁側のアトリエで自由に制作します。

日時：期間中の毎週土曜日 11：00～17：00

会場：NO-MA前庭

定員：10人程度（予約不要）

参加費：無料

② 自分だけの“香り”をつくろう

オリジナルの匂い香をつくるワークショップです。できた匂い香は、かわいい巾着袋に入れ持ち帰っていただけます。

案内人：香老舗 松栄堂、NO-MA学芸員

日時：9月29日（土）13：30～15：30

集合：NO-MA

定員：15人（要予約）

参加費：観覧料

③ “からだで遊ぼう”

実際にからだを動かすことで、からだをつかった表現の面白さを体感します。

講師：高木貴久恵（振付家、ダンサー）

日時：10月13日（土）14：00～16：00

集合：NO-MA

定員：15人（要予約）

参加費：観覧料

④ “からだの影をつかまえる”

カメラを使わない、日光写真を撮るワークショップです。感光紙の上に自分の大切なものとともに寝転がり、太陽の光を当ててその影を焼き付けます。

講師：浅見俊哉（写真作家、ワークショップデザイナー、キュレーター）

日時：10月27日（土）13：00～16：00（雨天の場合、翌28日に延期）

集合：NO-MA

定員：15人（要予約）

参加費：観覧料

※大切なもの、記憶の品、捨てられないものなどをご持参ください。

繋ぐ NO-MAのちっちゃなお祭り

ちっちゃい火を囲むお祭りを開催します。火を囲み、いろいろな人たちとおしゃべりしながら、かけがえのない時間を共有します。

コーディネーター：小山田徹（美術家、京都市立芸術大学教授）

日時：11月10日（土）15：00～21：00（雨天中止の可能性あり）

会場：八幡児童公園（近江八幡市博労町元5）

定員：なし（予約不要）

参加費：無料

協力：ちっちゃい火を囲むプロジェクト

同時開催 個々に合った作品鑑賞を考える～障害のある人とともに楽しむ芸術鑑賞会～

障害のある人が芸術に親しみ、楽しめる環境を充実させることを目的に、障害のある人たちとともに特性に合った芸術鑑賞会を試みます

① 高次脳機能障害のある人とともに楽しむ芸術鑑賞会

日時：10月26日（金）13：30～15：00

対象：高次脳機能障害のある人、
高次脳機能障害のある人と芸術を楽しみたい人

協力：滋賀県高次脳機能障害支援センター

② 盲ろうの人とともに楽しむ芸術鑑賞会

日時：11月9日（金）13：30～15：00

対象：盲ろうの人、盲ろうの人と芸術を楽しみたい人
協力：NPO法人しが盲ろう者友の会

【両回とも】講師：NO-MA学芸員 参加費：無料 定員：各回10名（要予約）

主催：社会福祉法人グロー [GLOW]（滋賀県 平成30年度障害者芸術アクセシビリティ普及促進事業）

展覧会を支えるサポーターたち

本展は、地域の方々をはじめとした3通りのサポーターと一緒に展覧会を作ります。

■ボーダレス・エリア記者クラブ

展覧会の開催にあわせてNO-MAや周辺地域の魅力を広報する記者クラブを結成しました。展覧会について、または地元のユニークな魅力について、記事を執筆し、ニュースレターを発行します。

■キュレーションサポーター

作品の見せ方や障害特性に合わせた鑑賞の場づくりを体験し、キュレーションに必要なスキルについて学びながら、本展の企画制作に携わります。

■ボランティアスタッフ

会場で観覧チケットの確認や監視など、展覧会を共同して運営します。また、時には作品の案内や、来場者との語りも。地域の方々も多く参加します。

ボーダレス・アートミュージアム NO-MA

以“身”伝心 からだから、はじめてみる

広報用画像申込書

社会福祉法人グロー 法人本部企画事業部
(ボーダレス・アートミュージアムNO-MA) 広報宛
FAX : 0748-46-8228

本展覧会広報用素材として、作品画像を用意しております。

ご希望の際は下記申込用紙に必要事項をご記入の上、FAX又はメールにてお申し込みください。

なお、写真の使用に際し、以下の点をご確認ください。

- ① キャプションを必ず表記ください。
- ② 作品のトリミング、文字載せはお控えください。
- ③ 本展記事をご紹介頂く場合には、恐れ入りますが情報確認の為に校正、掲載誌（紙）、DVD、CD等をお送り下さい。

媒体名：

『

』

種別： TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー
ネット媒体 携帯媒体 その他

発売・放送予定日：

御社名：

ご担当者名：

Eメールアドレス：

@

(〒 -)

ご住所：

お電話番号：

FAX：

ご希望の図版番号に✓をおつけください。

<input type="checkbox"/>	①草薙陵太 《無題》 2016年頃
<input type="checkbox"/>	②徳山 彰 《アイスクャンデー売り》 制作年不詳
<input type="checkbox"/>	③菊池和晃+にしなつみ 《KISS-Constantin Brancusi-》 2016年 撮影：山崎永友
<input type="checkbox"/>	④H 《無題》 2011年～
<input type="checkbox"/>	⑤森田 寅 《姿勢保持装置》 2018年
<input type="checkbox"/>	⑥伊藤賢士 《女性》 制作年不詳
<input type="checkbox"/>	⑦鎌田紀子 《大きいひと》 2011年
<input type="checkbox"/>	⑧米田 文 《赤》 2000年

【問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材】社会福祉法人グロー 法人本部企画事業部(ボーダレス・アートミュージアムNO-MA)
担当：山田・鈴木・松井 〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837 番地の 2
TEL : 0748-46-8100 FAX : 0748-46-8228 MAIL : kikaku@glow.or.jp